

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点(令和5年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、認定基本計画において「また訪れたい、ずっと暮らしたい、歴史・文化・芸術と共に育つ郷町(まち)」をコンセプトとし、目標として「歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町(まち)」、「点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)」、「あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)」を、目標指標として「文化施設等(5施設)利用者数」、「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」、「中心市街地における1階空き店舗数」、「中心市街地における居住人口(社会増減数)」を掲げている。

初年度である令和4年度は、「市道中央天津線他電線共同溝整備事業」をはじめとしたハード事業も順調に行われ、4月には「市立伊丹ミュージアム」がオープンし、2つの企画展には市内外から多くの人々が来館し、三軒寺前広場を中心としたイベント等のソフト事業は、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響が残る中でも感染症対策を講じながら、「イタミ朝マルシェ」や「クリスマスマーケット」、「伊丹郷町屋台村」などが開催され、特に3年ぶりとなる「伊丹まちなかバル」を10月に開催し、加えて2月には「白雪蔵まつり」、「冬の元気まつり」も開催されるなど、コロナ禍でも中心市街地全体の賑わい創出が図れた。

一方で、中心市街地における空き店舗数が年々増加しているものの、中心市街地の空き店舗への出店者に対する補助に取り組んできた結果、前計画では4極2軸と呼ばれる人通りの多い道路に面した1階部分のテナントなど、一般的に好条件とされる物件では順調に空き店舗の解消が図れてきた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、店主の高齢化や後継者不足等による閉店、廃業も相まって増加してきたため、今後は専門家や不動産事業者からのアドバイスを受けながら、中心市街地内で取り組むエリアを選定し、エリアのビジョン策定や組織の設立、事業計画、社会実験等を繰り返しながら、空き店舗を解消する必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
人口	14,828	14,940				
人口増減数	▲65	112				
自然増減数	9	▲30				
社会増減数	▲74	142				
転入者数	527	697				

2. 令和4年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

本計画の初年度であった令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が発生してから3年目を迎えた年度であり、依然として感染拡大の影響を受けた1年となった。

その中で、伊丹市においては、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した、まちなかイルミネーション事業をはじめ、日本遺産活用事業、事業者応援お楽しみギフト事業、設備等導入補助事業を実施し、中心市街地をはじめとした伊丹市内全域でにぎわいを創出するための支援策等に取り組んできた。また、3年振りの開催となる「いたみ花火大会」では、約5万人が来場者され、中心市街地の活性化に寄与した。

当協議会においては、引き続き「イタミ朝マルシェ」や「クリスマスマーケット」、「鑑賞 de 寄っトク！itami」等のイベントを実施し、さらに3年振りに「伊丹まちなかバル」を昨年10月、「冬の元気まつり」を今年2月に開催することが出来た。

また、令和4年4月22日にオープンした「市立伊丹ミュージアム」では企画展に多くの人々が訪れ、中心市街地内で「日本遺産」のPR展開が図られるなど、コロナ禍においてもにぎわい創出の取組みが展開されていることは評価できる。

一方で、前年度との対比では「中心市街地4エリアにおける1日当りの流動人口」は依然として停滞しており、「中心市街地における1階空き店舗数」は増加している。更なる活性化を図るためにも、「エリアマネジメント促進事業」や空き店舗の解消に資する取組について、事業者・商工会議所・まちづくり会社・行政等による連携の上、まち全体の更なる発展を期待する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町(まち)	文化施設等(5施設)利用者数	875,344人 (R1)	926,600人 (R8)	792,549人 (R4)	C	—	①
	中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)	168,064人 (R1) ※最新値 102,067人 (R3)	167,814人 (R8)	96,918人 (R4)	C	—	①
点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)	中心市街地における1階空き店舗数	65店舗 (R1)	54店舗 (R8)	72店舗 (R4)	C	—	①
あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)	中心市街地における居住人口(社会増減数)	18人 (R1)	104人 (R8)	142人 (R4)	A	—	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「文化施設等(5施設)利用者数」については、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響は未だに受けるものの、文化施設における休館・開館時間の短縮も無くなり、文化施設を含めた中心市街地内におけるイベントは一部を除き徐々に開催され、加えて、令和4年4月にオープンした「市立伊丹ミュージアム」では、著名な絵本作家による企画展を2つ開催し多くの人々が来館した。文化施設への来館者数が回復基調にあることから、目標達成は可能と見込まれる。

「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」については、前述のとおり新型コロナウイルス感染症の影響は未だに受けるものの、本市を代表する「伊丹まちなかバル」が3年ぶりに再開され、中心市街地の4極を結ぶ2軸の結節点である三軒寺前広場では、さらには「イタミ朝マルシェ」や「クリスマスマーケット」、「伊丹郷町屋台村」など、数多くのイベントも継続して開催された。また、中心市街地をはじめとした本市の賑わい創出や市内経済の活性化を目的に、夏には「いたみ花火大会」、冬には新たに「TSU・NA・GUいたみ まちなかイルミネーション」を開催した。その他、新たに中心市街地に1棟マンションが建設され、認可保育所も1カ所オープンしたことや、文化施設への来館者数が回復基調にあることから目標達成は可能と見込まれる。

「中心市街地における1階空き店舗数」については、これまで新型コロナウイルス感染症の影

響を受けた飲食店等をはじめとした事業者に対する様々な支援を行ってきたが、令和4年度は中心市街地全体の空き店舗が144店舗と令和3年度の134店舗から10店舗増加し、そのうち1階の空き店舗数は、72店舗と半数を占める結果となった。しかしながら、令和5年度には「エリアマネジメント促進事業」を進めるため、先進事例や中小機構のアドバイザーを活用した勉強会や空き店舗ツアーを開催しながら、中心市街地活性化協議会内に専門部会を立ち上げ、空き店舗を所有するオーナーとの交渉やリノベーションやサブリース、チャレンジショップなど空き店舗解消のための手法を取りまとめ、専門部会を中心に取り組むことで目標の達成を目指す。

「中心市街地における居住人口(社会増減数)」については、本市においても少子高齢化が進む中、転入促進・転出抑制を図ることが重要であり、中心市街地内のマンション1棟建設をはじめ、子育て世代に対する情報発信を行うシティプロモーション事業や認可保育所1カ所のオープン、伊丹商工プラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、遊びや交流、育児相談の場を提供するなど、居住環境の付加価値を高めるための取り組みを実施したことで、目標達成は可能と見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

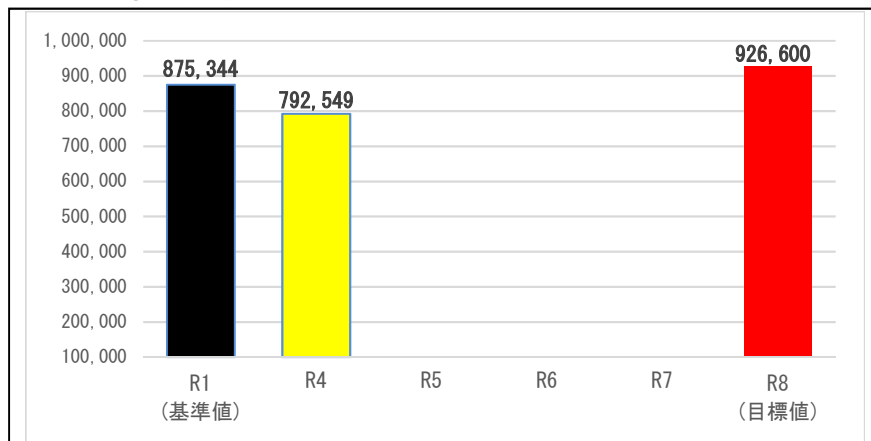
今回は初回であり、前回のフォローアップは実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「文化施設等(5施設)利用者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.95～P.97 参照

●調査結果と分析



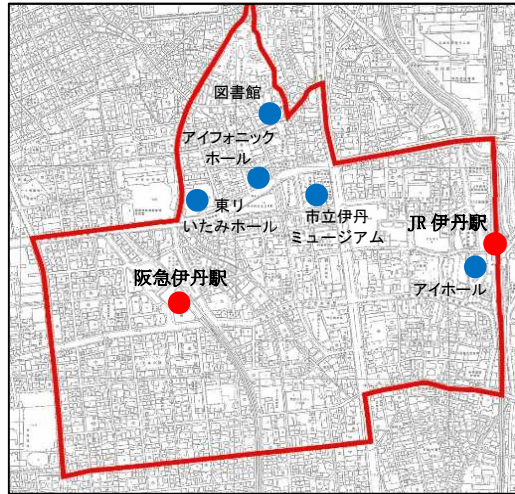
年	(人)
R1	832,628人 (基準年値)
R4	792,549人
R5	人
R6	人
R7	人
R8	926,600人 (目標値)

※調査方法：各文化施設利用者及びイベント入場者集計

※調査月：令和4年度(令和5年3月末)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：各文化施設(市立伊丹ミュージアム、東りいたみホール、伊丹アイフォニックホール、アイホール、図書館)



(単位：人)

施設名	R1 (基準年)	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
市立伊丹ミュージアム	※131,164	225,238				
東りいたみホール	194,430	153,522				
伊丹アイフォニックホール	105,570	82,421				
アイホール	39,549	35,464				
図書館	361,915	291,271				
イベント等	—	4,633				
合計	832,628	792,549				

※R1は、みやのまえ文化の郷(美術館・工芸センター・郷町館・柿衛文庫)＋博物館の人数。

〈分析内容〉

令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響が一定残るものの、感染症対策を引き続き行いながら、各文化施設におけるイベントや貸館事業を継続して実施した。

特に、令和4年4月にオープンした「市立伊丹ミュージアム」では、オープニングにあわせた著名な絵本作家による企画展を2つ開催したことにより、来場者数は225,238人となるなど、当該施設全体の来館者数も基準年である令和元年度の94,074人から大幅に増加した。あわせて、企画展への来館者を中心市街地の飲食店等へ誘導する事業もあわせて行った結果、基準年値(令和元年度)の利用者数を上回ることが出来た。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 市立伊丹ミュージアム連携事業(伊丹市、伊丹ミュージアム運営共同事業体など)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	令和4年4月にオープンする市立伊丹ミュージアムを中心に産官学が連携した魅力的なソフト事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新	目標値：40,500人増(R4～R8)

値及び進捗状況	<p>最新値：－</p> <p>オープンした令和4年度は、オープニングにあわせて開催された2つの企画展では、多くの人々が来館し、来館者数が64,141人となった。</p> <p>その他、当該施設内で多くの講座やワークショップを行い、また酒蔵を中心に日本遺産や「清酒発祥の地 伊丹」のPRを展開することで、中心市街地内の文化施設利用者数増に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>オープンにあわせた2つの企画展に多くの人々が来館したことから、今後も来館者増に繋がる企画展を行うとともに、当該施設内における魅力ある講座やワークショップを行い、さらには当該施設と中心市街地の店舗等と連携した事業も展開しながら来館者増を目指す。</p>

②. 文化施設連携事業((公財)いたみ文化・スポーツ財団、伊丹市)

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	文化施設同士が連携した事業を実施することで有機的連携を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：2,100人増(R4～R8)</p> <p>最新値：－</p> <p>令和4年度は、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄っトク! itami」を引き続き実施し、アンケート回収数は前年度の103件から135件と増加しており利用者数の増加が伺える。</p> <p>また、江戸時代の庶民の秋の楽しみ方である「虫聴き」という風習を現代風にアレンジした企画である「鳴く虫と郷町」も引き続き9月に10日間開催し、メイン会場となる市立伊丹ミュージアムをはじめ、中心市街地内の商店街、文化施設、街路樹などでは、秋の鳴く虫の音色が響き渡り、また音楽ライブや体験イベントなどの関連イベントも数多く行われ、21,364人の参加者数となり、中心市街地内の文化施設利用者数増に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>「鑑賞 de 寄っトク! itami」では、対象となる文化施設での公演数や中心市街地内の飲食店等の参加を増やすなどの工夫を行うとともに、「鳴く虫と郷町」をはじめとした中心市街地内の文化施設と周辺の商店街等と一体になった連携事業を継続して実施することで来館者増を目指す。</p>

③. 日本遺産連携事業(伊丹市)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	日本遺産のストーリーの魅力を伝えるイベント事業を実施する。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：400人増(R4～R8)</p> <p>最新値：－</p> <p>令和4年度は、オープンした「市立伊丹ミュージアム」内に、日本遺産紹介動画を放映するコーナーを整備し、加えて、オープニングにあわせた子供向け・大人向けのイベントを実施し、合計140人の参加があった。</p> <p>また、中心市街地内において、日本遺産をPRするための「のぼり」や菰樽を設置し、さらにはJR伊丹駅横の観光物産ギャラリーに伊丹の日本酒を有料で試飲できる機械を10月に設置したところ、これまで959杯の試飲があり、あわせて試飲から販売にも繋がっている。</p> <p>その他、中心市街地内で行われるイベントとの連携では、「伊丹まちなかバル」へ出展し、バルへ参加する100人以上に日本酒の無料試飲を行い、日本酒の味わい方や日本遺産のストーリーを学ぶ講座には70人の参加、バル参加店舗と連携した日本酒クイズにも50人参加するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	市立伊丹ミュージアム内の日本遺産紹介動画を放映するコーナーのPRをはじめ、酒蔵等を活用した講座やイベントを継続的に実施することで、来館者増を目指す。

④. 体験型周遊イベント事業(伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹市など)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の歴史資源・文化施設や商店街等を巡る体験型イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：6,240人増(R4～R8)</p> <p>最新値：－</p> <p>令和4年度は、歴史資源や文化施設等を活用した「謎解き」要素を取り入れたイベントとすべく、他自治体等で実施した実績のある事業者と協議を行ったが、収支面で折り合いがつかず初年度の実施には至らなかった。</p>
事業の今後について	<p>今後は、他の自治体等での事例を参考に、事業内容を見直し、新たな事業者との協議を行い、早期実施を行うことで、来館者増を目指す。</p>

⑤. 図書館連携事業(伊丹市)

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
--------	--------------

事業概要	市民、図書館職員による交流事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：2,000人増(R4～R8) 最新値：－ 令和4年度は、図書館が主催するイベントのほか、市民・利用者が主催するイベントなど、あわせて204件(参加人数：2,574名)が開催され、年間延べ291,271人が来館した。さらに、他施設や市内事業者との連携事業を実施するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	当該事業はイベント件数、参加者数ともに年々増加しているが、コロナ禍において感染症対策を講じながら今年度も行われきた。今後も継続して交流事業を継続し、来館者増を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

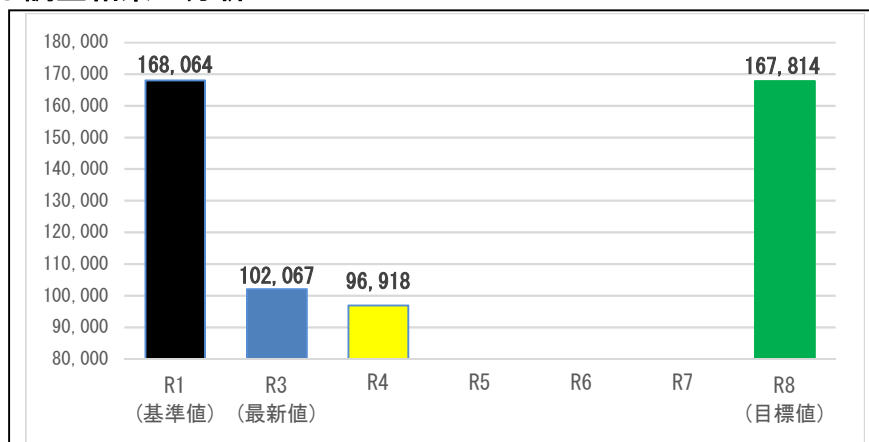
未だに新型コロナウイルス感染症の影響は受けるものの、主要事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能だと思われる。

今後は、さらなる来館者増となるため、各イベント参加者へのアンケート等を実施することで魅力ある内容となるための工夫を行うとともに、特に「体験型周遊イベント事業」では他自治体等の事例を参考にしながら事業者との協議を行った上で早期に実施することで、中心市街地全体の回遊性向上を目指したい。

(2)「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 98～P. 105 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R1	168,064人 (基準年値)
R3	※102,067人 (最新値)
R4	96,918人
R5	人
R6	人
R7	人
R8	167,814人 (目標値)

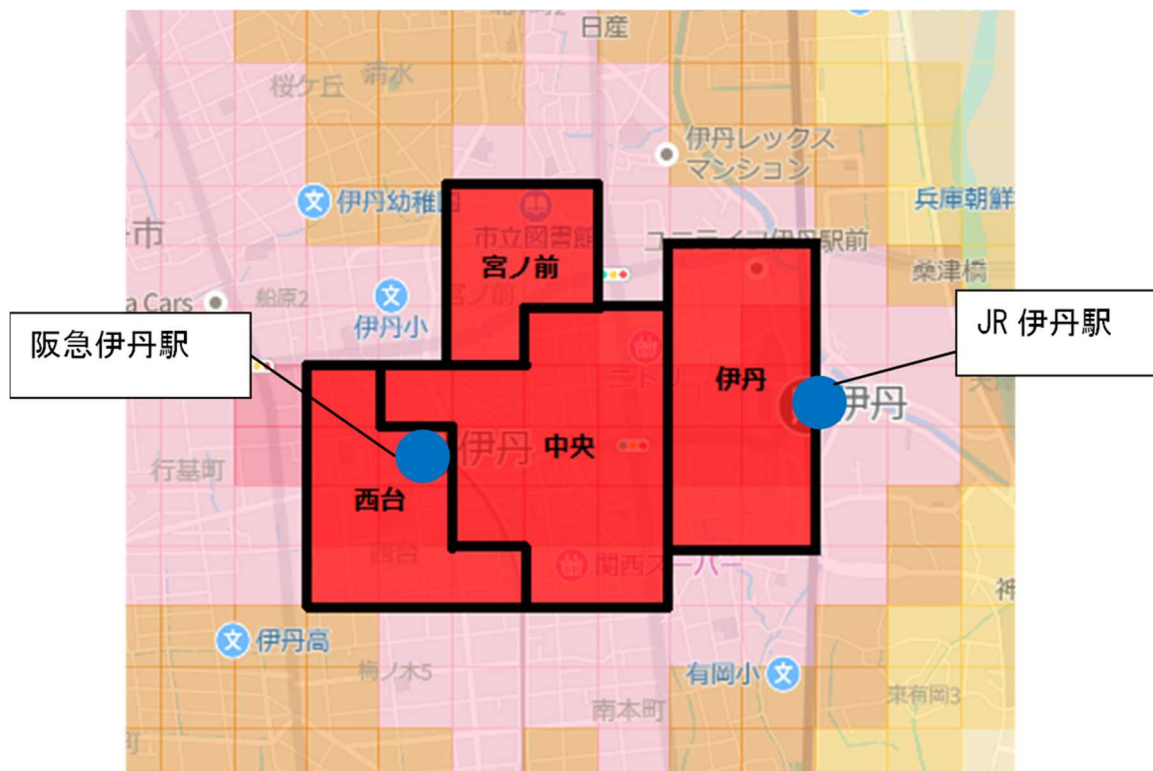
※調査方法：「DS. INSIGHT」を使い、中心市街地内で一定時間(2分以上)滞在する住民と来訪者

の延べ人数。

※調査月：令和4年度(令和5年3月末)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：「DS. INSIGHT」で設定可能な最小125m四方のメッシュを組み合わせて、本計画の計画区域を超えない範囲で形成した「伊丹」、「宮ノ前」、「中央」、「西台」の4エリア



(単位：人)

年度	月	エリア別1日あたり流動人口(平均値)				4エリア合計
		伊丹	宮ノ前	中央	西台	
R1	10~12	44,170	27,554	56,136	40,204	(基準値) 168,064
	1~3	40,420	23,220	53,333	39,173	(参考値) 156,146
R2	4~3	29,842	17,424	40,426	29,858	(参考値) 117,550
R3	4~11	25,681	15,289	34,684	26,413	(最新値) 102,067
R4 (1年目)	4~3	25,519	13,248	32,917	25,233	96,918
R5 (2年目)	4~3					
R6 (3年目)	4~3					
R7 (4年目)	4~3					
R8 (5年目)	4~3					

〈分析内容〉

令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響は未だに受けるものの、本市を代表する「伊丹まちなかバル」が3年ぶりに開催し、およそ7,500人の参加者が中心市街地を訪れた。さらには、中心市街地の4極を結ぶ2軸の結節点である三軒寺前広場では、「イタミ朝マルシェ」も定期的に行われ、さらには「クリスマスマーケット」や「伊丹郷町屋台村」など、数多くのイベントが開催された。

特に、前述の令和4年4月にオープンした「市立伊丹ミュージアム」では、日本でも著名な絵本作家による企画展を2つ開催したことにより、来場者数は64,141人となるなど、当該施設全体の来館者数も225,238人となるなど、中心市街地への来街者増に繋がった。

また、本市を代表する「いたみ花火大会」も3年ぶりに感染症対策を講じて実施し、約50,000人もの参加者となり、会場近くの中心市街地における回遊も促進された。

この他、12月には中心市街地内において「TSU・NA・GU いたみ まちなかイルミネーション」を開催し、約1ヵ月間という長期間のイベントだったこともあり、市内外から延べ約50,000人もの多くの人々が中心市街地を訪れるなど、新たに中心市街地に1棟マンションの建設、認可保育所1ヵ所のオープンとあわせ、目標達成は可能と見込まれる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 三軒寺前広場活用イベント事業(伊丹市中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	平成14年度～【実施中】
事業概要	三軒寺前広場でマルシェイベント、元気をテーマにしたイベント等を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：4,187人増(R4～R8) 最新値：－ 令和4年度は、毎月1回日曜日に実施する「イタミ朝マルシェ」を9回開催し、延べ7,873人が参加した。その他、12月には4,500人が参加した「クリスマスマーケット」や、2月の白雪蔵まつりと同時開催として、3年ぶりとなる「冬の元気まつり」を開催したところ、5,000人が参加するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、三軒寺前広場を活用したマルシェ形式のイベントを継続的に実施しながら、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

②. 市立伊丹ミュージアム連携事業(伊丹市、伊丹ミュージアム運営共同事業体など)

※再掲

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	令和4年4月にオープンする市立伊丹ミュージアムを中心に産官学が連携した魅力的なソフト事業を実施する。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：13,760人増(R4~R8)</p> <p>最新値：－</p> <p>オープンした令和4年度は、著名な絵本作家による2つの企画展では多くの人々が来館し、来館者数が64,141人となった。</p> <p>その他、当該施設内で多くの講座やワークショップを行い、また酒蔵を中心に日本遺産や「清酒発祥の地 伊丹」のPRを展開するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>日本でも著名な絵本作家による2つの企画展に多くの人々が来館したことから、今後も来館者増に繋がる企画展を行うとともに、当該施設内における魅力ある講座やワークショップを行い、さらには当該施設と中心市街地の店舗等と連携した事業も展開しながら、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

③. 日本遺産連携事業(伊丹市)

※再掲

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	日本遺産のストーリーの魅力を伝えるイベント事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：400人増(R4~R8)</p> <p>最新値：－</p> <p>令和4年度は、オープンした「市立伊丹ミュージアム」内に、日本遺産紹介動画を放映するコーナーを整備し、加えて、オープニングにあわせた子供向け・大人向けのイベントを実施し、合計140人の参加があった。</p> <p>また、中心市街地内において、日本遺産をPRするための「のぼり」や菰樽を設置し、さらにはJR伊丹駅横の観光物産ギャラリーに伊丹の日本酒を有料で試飲できる機械を10月に設置したところ、これまで959杯の試飲があり、あわせて試飲から販売にも繋がっている。</p> <p>その他、中心市街地内で行われるイベントとの連携では、「伊丹まちなかバル」へ出展し、バルへ参加する100人以上に日本酒の無料試飲を行い、日本酒の味わい方や日本遺産のストーリーを学ぶ講座には70人の参加、バル参加店舗と連携した日本酒クイズにも50人参加するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>今後も、市立伊丹ミュージアム内の日本遺産紹介動画を放映するコーナーのさらなるPRをはじめ、酒蔵等を活用した講座や中心市街地内のイベントとの連携を継続的に実施することで、さらなる中</p>

	心市街地内の流動人口の増加を目指す。
--	--------------------

④. 公共交通を活用した中心市街地誘客事業(伊丹市)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	大阪国際空港(伊丹空港)と中心市街地とを結ぶ「空港アクセスバス」の利便性PRや中心市街地内でのイベント、各店舗との連携事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180人増(R4～R8)* 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和4年度は、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、大阪国際空港(伊丹空港)と中心市街地(JR伊丹駅および阪急伊丹駅)とを結ぶ「空港アクセスバス」は、専用車両を中心として運行する急行便「エアポートライナー」は引き続き休止しているが、普通便は運行しており、兵庫県からの補助を受けたラッピング車両等で運行しており、年間423,221人が乗車している。</p> <p>また、専用車両は普通便をはじめ、市内の各路線を運行しており、市民をはじめ多くの人に「空港アクセスバス」の利便性PRを行っている。</p> <p>また、10月には中心市街地内で開催の「伊丹まちなかバル」において、100円の特別割引乗車券を発行し、399人が利用するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>今後、大阪国際空港(伊丹空港)の利用者数が増加すると、あわせて「空港アクセスバス」の利用者も増加することが想定されることから、さらなる利便性PRを行うとともに、中心市街地内でのイベントや、交通局が取り組む中心市街地をはじめとした市内の店舗との連携事業も継続することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

⑤. 文化施設連携事業((公財)いたみ文化・スポーツ財団、伊丹市)

※再掲

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	文化施設同士が連携した事業を実施することで有機的連携を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値	目標値：40,180人増(R4～R8)*

値及び進捗状況	<p>最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和4年度は、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄っトク！ itami」を引き続き実施し、アンケート回収数は前年度の103件から135件と増加しており利用者数の増加が伺える。</p> <p>また、江戸時代の庶民の秋の楽しみ方である「虫聴き」という風習を現代風にアレンジした企画である「鳴く虫と郷町」も引き続き9月に10日間開催し、メイン会場となる市立伊丹ミュージアムをはじめ、中心市街地内の商店街、文化施設、街路樹などでは、秋の鳴く虫の音色が響き渡り、また音楽ライブや体験イベントなどの関連イベントも数多く行われ、21,364人の参加者数となり、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>「鑑賞 de 寄っトク！ itami」では、対象となる文化施設での公演数や中心市街地内の飲食店等の参加を増やすなどの工夫を行うとともに、「鳴く虫と郷町」をはじめとした中心市街地内の文化施設と周辺の商店街等と一体になった連携事業を継続して実施することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

⑥. 図書館連携事業(伊丹市)

※再掲

事業実施期間	平成24年度～【実施中】
事業概要	市民、図書館職員による交流事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180人増(R4～R8)※</p> <p>最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和4年度は、図書館が主催するイベントのほか、市民・利用者が主催するイベントなど、あわせて204件(参加人数：2,574名)が開催され、年間延べ291,271人が来館した。さらに、他施設や市内事業者との連携事業を実施するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>当該事業はイベント件数、参加者数ともに年々増加しているが、コロナ禍において感染症対策を講じながら今年度も行われきた。今後も継続して交流事業を継続し、さらなる中心市街地内の流動人口</p>

	の増加を目指す。
--	----------

⑦. いたみ花火大会の開催(いたみ花火大会実行委員会、伊丹市)

事業実施期間	昭和 56 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地隣接地域で花火大会を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和 4 年度は、中心市街地の東側に隣接する猪名川河川敷で 8 月に 3 年ぶりに夏の風物詩である花火大会を開催し、約 50,000 人の集客があった。今回の花火大会では、新型コロナウイルス感染症の対策として、プログラム変更のほか、露店の取りやめを行った。JR 伊丹駅に隣接する大型商業施設をはじめ、中心市街地内の飲食店等には多くの人々が利用するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>今後は、国・県によるコロナ禍におけるイベント開催に関する規制等の動向に注視するとともに、中心市街地全体の賑わい創出のため、飲食店等におけるさらなる売り上げ増加に繋げる取り組みを通じて、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

⑧. まちなか大規模イベントの開催(商店街、民間事業者、伊丹市など)

事業実施期間	平成 10 年度～【実施中】
事業概要	四季おりおりの大規模イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が未だに残るものの、徐々にイベントが行われるようになった。中心市街地に隣接する伊丹小学校において夏には「いたみっ子夏の夕べ」が行われ、中心市街地では秋の「宮前まつり」(2,500 人参加)、冬には「白雪蔵まつり」(13,000 人参加)、「TSU・NA・GU いたみ まちなかイルミネーション」(50,000 人参加)が行われるなど、中心市街地</p>

	内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後は、新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、感染拡大防止の対策を講じながら、中心市街地内における大規模イベントを開催し、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑨. 伊丹まちなかバルの開催(伊丹市中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】
事業概要	年 2 回(春・秋)定期的に中心市街地内の飲食店を中心に食べ歩き飲み歩きイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、令和 4 年度の 5 月の春バルは中止となったが、10 月の秋バルは実施した。</p> <p>参加店舗がコロナ禍前の 100 店舗程度から 70 店舗近くに減ったことから、あわせてチケットの販売冊数も 2,800 冊と少なくなりましたが完売した。また、初参加の店舗数は 17 であった。</p> <p>その他、本部がある三軒寺前広場には協賛企業の模擬店をはじめ、「阪神間日本遺産推進協議会」によるブースも出展され、伊丹の日本酒の無料試飲やおおぞら講座も行われるなど日本遺産の PR が行われ、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	今後も、新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、感染拡大防止の対策を講じながら、参加店舗を増加させる等の工夫を行いながらバルを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑩. 伊丹郷町屋台村の開催(伊丹郷町商業会)

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	年 2 回(夏・冬)定期的に三軒寺前広場で屋台での飲食イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p>

	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、令和 3 年度から年 2 回を年 1 回、開催日数を 3 日から 2 日へと変更して、令和 4 年度は 10 月に開催した。両日とも商店会が加盟する飲食店の屋台をはじめ、ステージでは歌やダンスなどが行われた結果、両日で合計 8,700 人の参加があったことから、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>今後も、新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、感染拡大防止の対策を講じながら、屋台村を継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

⑪. アリフリ事業の開催(アリオ名店会)

事業実施期間	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	商店街主催のフリーマーケットを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、令和 4 年度は 3 年ぶりに 10 月に開催した。JR 伊丹駅近くの有岡城跡史跡公園で実施し、「アリオ de ハンドメイド&フリーマーケット」として、フリーマーケットのほか、ハロウィンくじ引き抽選会や様々なハンドメイドのワークショップが行われ、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>今後も、新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、感染拡大防止の対策を講じながら、アリフリを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

⑫. 日本酒の日記念イベントの開催(伊丹酒造組合、伊丹市など)

事業実施期間	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	清酒発祥の地 PR のため日本酒の日イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p>

	<p>例年、10月1日の「日本酒の日」に中心市街地において清酒をPRするイベントを開催しているが、令和4年度は、白雪ブルワリービレッジ長寿蔵駐車場において、伊丹酒造組合蔵元の4銘柄のきき酒セット等の販売をはじめ、鏡開きも行われた。先着100人にはオリジナル木杓のプレゼントがあったことから整理券の配布も行われた。整理券配布時間の前には定員に達するなど好評で、鏡開きの後に行われた振舞い酒にも長蛇の列が出来るなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>今後も、新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、感染拡大防止の対策を講じながら、清酒をPRするイベントを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

⑬. 西台3丁目分譲マンション建設事業(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	<p>区域内の商業地域に14階建の分譲マンションを建設することで、中心市街地内の居住人口の増加を図り、さらなるまちなか居住を促進する。</p>
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>西台3丁目に14階建て83戸の分譲マンションが7月に建ち、間取りも1LDK～4LDKと単身からファミリー層が購入可能な物件で完売となるなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>今後も、当該マンションにおける売り物件等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな分譲マンション等の建設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

⑭. (仮称)伊丹はぐくみ中央保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	<p>阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。</p>
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>中央4丁目に0歳児～5歳児までを受け入れる、定員60人の認可保育所がオープンしたことで、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>今後も、当該保育所の定員割れ等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

⑮. トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	<p>阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>保育所等整備交付金(厚生労働省)(令和4年度～令和8年度)</p>
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>西台5丁目に0歳児～5歳児までを受け入れる、定員60人の認可保育所を令和5年4月オープン予定であり、当該認可保育所がオープンすることで、中心市街地内の流動人口の増加に寄与する。</p>
事業の今後について	<p>今後も、当該保育所のオープン等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響は一定あるものの、主要事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能だと思われる。

今後は、さらなる流動人口を増加させるため、三軒寺前広場をはじめとした中心市街地内での様々なイベントについて、新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、感染拡大防止の対策を講じながら継続して実施していく。

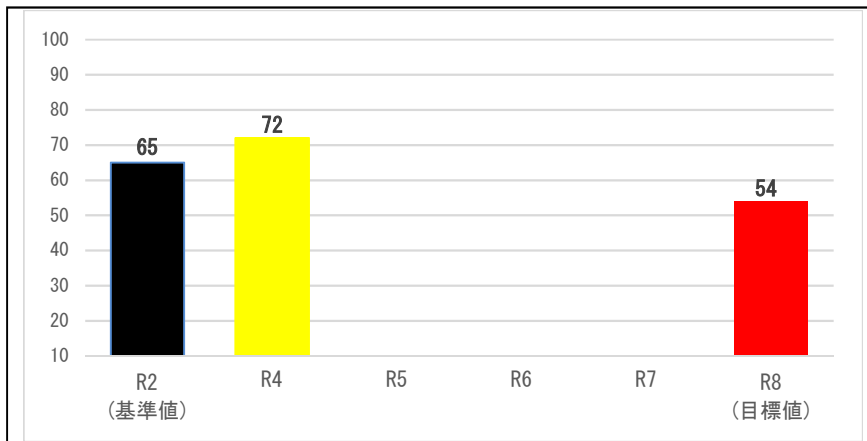
特に、流動人口を調査する際に活用する「DS. INSIGHT」のうち、「Yahoo! JAPAN」の検索データを元に、生活者の興味関心を可視化するサービスである「People」という分析ツールを活用し、具体的には特定キーワード検索者が他に検索したことも確認できることから、イベントなどのソフト事業をはじめとするターゲット属性のニーズに合わせた企画や訴求等にも役立て、イベントの充実等を図っていく。

また、令和4年度は民間分譲マンション1棟の建設、認可保育所1カ所の開設が行われたが、令和5年4月に開設予定の認可保育所をはじめ、中心市街地内の他の民間分譲マンションや認可保育所等の建設・開設動向を注視しつつ、市内の関係部署と連携しながら、流動人口の増加を目指したい。

(3) 「中心市街地における1階の空き店舗数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.106～P.107 参照

●調査結果と分析



年	(店舗)
R2	65 店舗 (基準年値)
R4	72 店舗
R5	店舗
R6	店舗
R7	店舗
R8	54 店舗 (目標値)

※調査方法： 中心市街地内を現地確認(視認ならびに近隣への聞き取り)

※調査月： 令和4年度(令和4年10月～11月)

※調査主体： 伊丹市

※調査対象： 中心市街地

(単位：店舗)

地区		R2 (基準年)	R3	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
空き店舗数	宮ノ前	7	7	7				
	伊丹	12	10	9				
	中央	70	74	73				
	西台	40	43	55				
	計	129	134	144				
1階空き	宮ノ前	7	7	7				
	伊丹	10	7	7				
	中央	33	32	36				

店舗数	西台	15	20	22			
	計	65	66	72			

〈分析内容〉

「中心市街地の1階空き店舗数」については、全体でも基準年である令和2年度に129店舗、令和3年度に134店舗となり、令和4年度には144店舗と基準年よりも15店舗と増加したが、1階空き店舗でも、令和2年度に65店舗、令和3年度に50店舗となったものの、令和4年度には72店舗と7店舗増加した。

エリア別にみると、宮ノ前は基準年から±0店舗の7店舗(割合:10.8%→9.7%)、伊丹は基準年から▲3店舗減の7店舗(割合:15.4%→9.7%)、中央は基準年から+3店舗の36店舗(割合:50.8%→50%)、西台は基準年から+7店舗の22店舗(割合:23%→30.6%)と、中央が一番多く、増加割合では西台が一番となった。

また、令和4年度の業種別にみると、物販が27店舗(宮ノ前5店舗、伊丹5店舗、中央12店舗、西台5店舗)と一番多く、次いでサービス19店舗(宮ノ前0店舗、伊丹1店舗、中央10店舗、西台8店舗)、飲食16店舗(宮ノ前2店舗、伊丹1店舗、中央10店舗、3店舗)、その他10店舗となった。

1階の空き店舗増加の要因としては、前計画においても中心市街地の空き店舗への出店者に対する補助に取り組んできたが、4極2軸と呼ばれる人通りの多い道路に面した1階部分のテナントなど、一般的に好条件とされる物件では順調に空き店舗の解消が図れてきたものの、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、国・県・本市による様々な事業者支援を行ってきたものの、店主の高齢化や後継者不足等による閉店、廃業も相まって増加したものと考えられる。

一方で、3年振りに開催された「伊丹まちなかバル」においては、17店舗が初参加するなど、中心市街地での新規出店が継続して見受けられている。

引き続き「商店街等活性化補助事業」を通じて、各商店街への誘客を促進するとともに、新たに「エリアマネジメント促進事業」に取り組み、エリアの価値向上を図ることを目的として、設定したエリア(例えば、商店街単位、丁目単位、空き店舗が複数集まっている場所)における今後の方向性(ビジョン)を検討し、その検討結果をもとに魅力的な店舗の誘致をはじめ、空き店舗をリノベーションしてサブリースやチャレンジショップ等を行い、1階空き店舗の解消に取り組む。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 創業支援事業(伊丹市)

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	中心市街地をはじめ、市内における新規創業に対し、店舗等の賃借料の一部を補助し、創業者の負担を軽減する等の支援を予算の範囲内において行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度) ※中心市街地活性化ソフト事業の支援対象は、中心市街地区域内で実施する分のみ。

事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：15件減少(R4～R8)</p> <p>最新値：－</p> <p>令和4年度は、市域全体で19店舗を支援したが、そのうち中心市街地内では1店舗で1階の出店となり、中心市街地における空き店舗解消に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>令和4年度については、本市の予算上限に達したため、今後の執行状況等により創業支援の補助を再開する予定である。</p> <p>引き続き、当該事業を継続するとともに、「空き店舗情報バンク・マッチング事業」とも連携し、創業希望者・新規出店者への効果的な情報提供を行いながら、引き続き中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。</p>

②. エリアマネジメント促進事業(伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹まち未来(株)、伊丹市、伊丹商工会議所、商業者組織など)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の空き店舗等遊休不動産を活用した事業に取り組むことで、各エリアの価値向上につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業(経済産業省) (令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：2件減少(R4～R8)</p> <p>最新値：－</p> <p>令和4年度は、中小機構(経済産業省)の専門家チームやアドバイザーの派遣を受け、エリアマネジメント事業に関する基礎的な内容を中心市街地活性化協議会事務局で学び、協議会メンバーや商業者、不動産事業者、地権者、市民等を対象としたセミナー型の勉強会を実施した。</p> <p>また、年度末には協議会内に専門部会を設立するための準備組織を立ち上げるなど、中心市街地における1階の空き店舗解消に向けた準備を行った。</p>
事業の今後について	令和4年度は勉強会の実施、準備組織の立ち上げを行ったが、令和5年度には専門部会を設置し、エリアビジョンの策定、事業計画の策定、社会実験等を行い、中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。

③. 空き店舗情報バンク・マッチング事業(伊丹市、伊丹市中心市街地活性化協議会など)

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の空き店舗情報を一元化し、出店を検討している者に空き店舗や制度等に関する情報を提供するための発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：5件減少(R4～R8)</p> <p>最新値：－</p> <p>令和4年度の当初には、2件（内、1階1件）の空き店舗を本市のホームページに掲載し、年度中に2件とも申し込みが入り、中心市街地における1階の空き店舗解消に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>当該事業をスタートさせる令和3年度には、(一社)兵庫県宅地建物取引業協会阪神北支部と協議を行い、本市の不動産事業者への事業等の案内を行ったものの、その後は定期的な案内等を行っていなかったことから、今後は改めて宅建協会をはじめ、本市の不動産事業者への案内を通じて、中心市街地内の空き店舗の掲載を行っていくとともに、本市独自の支援制度の案内もあわせて行えるようにホームページの充実を図ることで、中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。</p>

④. 商店街等活性化補助事業(伊丹市)

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	活性化を推進しようとする市内の商店街等イベント等のソフト事業の実施に要する費用の一部を補助することにより、市内商業の振興発展を図り、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：－※</p> <p>最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和4年度は、市内17商店会組織のうち9商店会に補助を行い、そのすべてが中心市街地内の商店会であった。商店会が行う「伊丹郷町屋台村」や「宮前まつり」、歳末セールや抽選会等の活性化イベント、商店街等PRなどへ補助することで、中心市街地内の魅力向上が図られ、中心市街地における1階の空き店舗解消に寄与した。</p>
事業の今後について	<p>今後も、新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、感染拡大防止の対策を講じながら、商店会組織が独自で行う活性化イベント、商店街等PRへの支援を継続的に行い、さらなる中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。</p>

⑤. チャレンジショップの開催(伊丹市中心市街地活性化協議会など)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の商店街などの空き店舗、空きスペースなどを利用し

	て、起業を考えている方等に情報提供し、安い家賃で一定期間試験的に貸し出すことで、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：－※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和4年度は、「エリアマネジメント促進事業」に取り組むため、中小機構(経済産業省)の専門家チームやアドバイザー派遣を受け、協議会メンバーや商業者、不動産事業者、地権者、市民等を対象に先進事例を学ぶセミナー型の勉強会を開催した。</p> <p>また、空き店舗ツアーも行い、空き店舗の今後の活用について参加者と共有するとともに、サブリースやチャレンジショップでの活用も視野に入れながら、中心市街地内で活動する事業者と一緒に空き店舗オーナーへの交渉等も行うなど、中心市街地における1階の空き店舗解消に向けた準備を行った。</p>
事業の今後について	<p>令和4年度は勉強会の実施、空き店舗ツアー、オーナーへの交渉等を行ったが、令和5年度には「エリアマネジメント促進事業」を進めるため、設置済の専門部会を中心にチャレンジショップをはじめとした空き店舗解消への取り組みを行い、さらなる中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。</p>

⑥. 創業塾の開催(伊丹商工会議所、伊丹市)

事業実施期間	平成18年度～【実施中】
事業概要	<p>創業準備中の方や、将来、起業を考えている方誰もが参加できる創業塾や、女性だけを対象にした女性創業塾を開催し、開業に向けてサポートし、商業の担い手を育成することで、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。</p>
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：－※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和4年度は、創業塾に22人(令和3年度16人)、女性創業塾に26人(令和3年度26人)が受講され、創業の促進を図り計4人が中心市街地外で創業した。</p>

事業の今後について

今後は、継続して創業塾を開催するとともに、当該創業塾参加者が中心市街地において実際に創業したかどうかの追跡調査等も行いながら、さらなる中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗したものの、中心市街地における空き店舗数、さらには1階の空き店舗数が増加している状況である。

前計画で取り組んだ「空き店舗出店促進事業」や「創業支援事業」などは、空き店舗周辺の事業者や地元の意向等は反映されず、空き店舗解消のみが優先され、新規出店者の意向のみが反映されてきた。結果として、様々な業種が集積することとなり、中心市街地内のエリアの価値向上に資するまでは至っていないと考える。

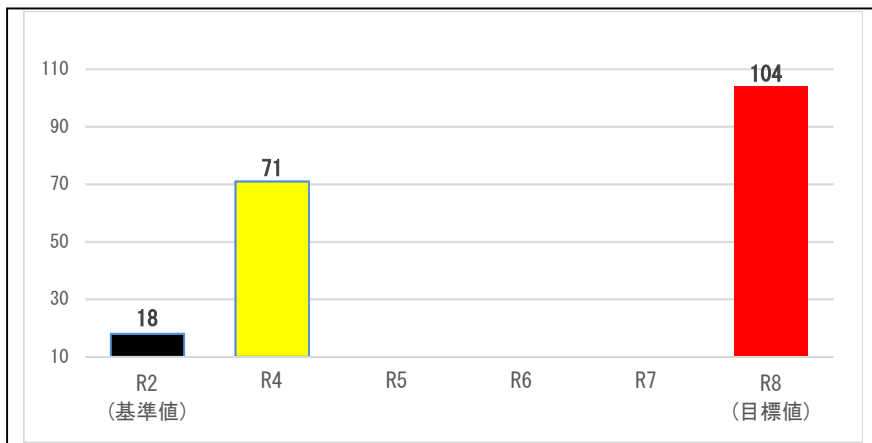
今後は、「エリアマネジメント促進事業」に取り組む中で、1階の空き店舗を含めた魅力的な店舗の誘致等を含めた、エリアにおける今後の方向性(ビジョン)を策定するとともに、当該ビジョンに基づき既存の支援事業等をブラッシュアップさせることで、中心市街地内の1階空き店舗解消を目指したい。

加えて、今後は不動産事業者の協力が重要であると考え、「エリアマネジメント促進事業」の実行部隊である専門部会には不動産事業者をはじめ、エリアの代表(商店会や自治組織の代表)にも参加してもらい、空き店舗の所有者(オーナー)の情報を収集するとともに、オーナーへの交渉手法を学びながら、中心市街地における1階空き店舗解消を目指したい。

(4)「中心市街地における居住人口(社会増減数)」

※目標設定の考え方認定基本計画 P.108~P.109 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
R2	平均 18 人/年 (基準年値)
R4	平均 71 人/年
R5	平均 人/年
R6	平均 人/年
R7	平均 人/年
R8	平均 104 人/年 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データ+国勢調査推計人口(補完的)

※調査月：令和4年度(令和4年10月)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：中心市街地

(単位：人/年(平均))

地区		R2 (基準年)	R3	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
実績値	転入(a)	633.8 ----- ※531.1	1018	1,064				
	転出(b)	512.8	992	993				
	社会増減 (a-b)	121.0 ----- ※18.3	26	71				

※基準年である R2 は、H29～R2 までのマンション開発の影響を勘案した値を採用。

マンション開発戸数×1戸当たり 2.36人/世帯（伊丹市平均世帯人員）として算出。

〈分析内容〉

令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、前計画からも順調に中心市街地における居住人口(全体)は少しずつ増加してきた。

令和4年度については、「市道中央天津線他電線共同溝整備事業」や「まちなみ景観整備促進事業」、「安全・安心見守りカメラ整備事業」、「まちなかミマモルメ整備事業」など、中心市街地をはじめとした本市の安全・安心な居住環境の整備を進め、特に「西台3丁目分譲マンション建設事業」も7月には完了し83戸が完売となり、受け入れ人員60人の認可保育所である「伊丹はぐくみ中央保育園(認可保育事業)」も4月にオープンするなど、主要事業は概ね順調に取り組むことが出来た。

また、「シティプロモーション事業」では子育て世代をターゲットにした魅力発信を行うとともに、伊丹商エプラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、遊びや交流、育児相談の場を提供する「地域子育て拠点支援事業」など、居住環境の付加価値を高めるための取り組みを実施した結果、目標達成は可能と見込まれる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西台3丁目分譲マンション建設事業(民間事業者)

※再掲

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	区域内の商業地域に14階建の分譲マンションを建設することで、中心市街地内の居住人口の増加を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：196人増(R4～R8)※ 最新値：196人増 西台3丁目に14階建て83戸の分譲マンションが7月に建ち、間取りも1LDK～4LDKと単身からファミリー層が購入可能な物

	件であり完売となったことから、本市の平均世帯人員 2.36 人を掛け合わせると、目標値としていた 196 人の中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	当該事業は当初の目標値を達成した。今後は、当該マンションにおける売り物件等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな分譲マンション等の建設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

②. 伊丹はぐくみ中央保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和 4 年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：85 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加(社会増)を目指すことから、個別の数値は未設定。 中央 4 丁目に 0 歳児～5 歳児までを受け入れる、定員 60 人の認可保育所がオープンしたことで、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れや毎年の入園人員状況等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

③. トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	保育所等整備交付金(厚生労働省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：85 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。

	西台 5 丁目に 0 歳児～5 歳児までを受け入れる、定員 60 人の認可保育所を令和 5 年 4 月オープン予定であり、当該認可保育所がオープンすることで、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与する。
事業の今後について	今後も、当該保育所のオープンや定員割れ、毎年の入園人員等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

④. 公衆トイレ改修事業(伊丹市)

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる中心市街地内の 2 カ所の公衆トイレについて、バリアフリー設備など誰もが使いやすい機能の充実、改修等を行うことで、歩きやすく快適な都市空間の創出や中心市街地内での回遊性を高め、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業(総務省) (令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 4 年度は、JR 伊丹駅側の公衆トイレについて、周辺への移設を伴うため、移設先を検討した結果をもって設計等を行い、住民説明を行った。 しかしながら、移設先を再検討する必要が生じたことから、現在は新たな移設先を検討し、再設計を行う準備を進めており、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する整備を進めていく。
事業の今後について	今後も、JR 伊丹駅側の公衆トイレの新たな移設先、再設計を行うとともに、阪急伊丹駅側の公衆トイレについても、同様に住環境向上に資する改修等に向けた準備を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑤. 地域子育て支援拠点事業(伊丹市)

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	商エプラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、親子で気軽に集い、遊びや子育て家庭の相互交流を促進し、子育て家庭と地域をつなぐ場として機能させ、地域ぐるみで子

	育てを応援する体制を整える。
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金(内閣府)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>「いたみむっくむっくルーム」では、0～3歳児の子どもと保護者(市内在住・在勤)が利用できる親と子の育ちの場として、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用人数を午前10組、午後10組の予約制としているが、年間8,734人の利用があるなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。</p>
事業の今後について	<p>今後も、新型コロナウイルスの感染状況に注視しつつ、感染拡大防止の対策を講じながら、利用人数等を制限して運営していくものの、利用人数の増加に向けたPR等の取り組みなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。</p>

⑥. シティプロモーション事業(伊丹市)

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	<p>対象を子育て世代に特化した「住みたいまち伊丹」、清酒文化を伝える「清酒発祥の地 伊丹」など、ターゲットを絞った、戦略的なシティプロモーションを推進することにより、「まちの魅力」を「戦略的・効果的に」発信し、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。</p>
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和4年度は、移住・定住を促進するため、市の観光スポットや子育て施策などの魅力を紹介している新PR冊子「イイ！いたみ」を5,000部発行し、市外からの来訪者の多い大型商業施設や公共施設、不動産事業者等、さらには市内外でのイベント等で配布した。</p> <p>また、伊丹大使を活用して本市の魅力在市内外へ情報発信するとともに、引っ越し検討者で近隣市に居住している主に20代～30代の子育て層をターゲットに、本市の魅力を発信するために、動画</p>

	<p>作成とリスティング広告（Google）と SNS 広告（LINE）を活用し、本市シティプロモーションサイト「未来へつなぐまち伊丹」への誘引を図ることを目的とした事業を進めた。</p> <p>その他、「清酒発祥の地 伊丹」のPRについては、令和2年6月に認定を受けた日本遺産の認知度向上及び観光客誘致に向けた動画による情報発信やイベント等を通じて行うなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。</p>
事業の今後について	<p>今後も、中心市街地をはじめた本市への移住・定住に向け、様々な媒体を活用したシティプロモーション活動を継続して取り組むなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。</p>

⑦. 男女共同参画センター事業(伊丹市、NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西)

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	<p>男女共同参画の拠点施設「男女共同参画センターここいろ」において、市民活動・交流の支援事業や各種相談、啓発事業、情報提供を行い、性別にかかわらず全ての人々が安心して地域社会で生き生きと暮らせるまちの実現を目指し、来街者の増加及びまちの定住人口の増加に繋げる。</p>
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：—</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和4年度は、男女共同参画に関するさまざまな講座やイベントを70軒開催し、890人も参加があった。また、女性のためのカウンセリングや就職・起業・資格取得への相談、男性のための悩み相談などを行い、577人の相談があった。</p> <p>その他、女性や男女共同参画に関する図書の見学や貸し出しを行うとともに、男女共同参画社会づくりを目指すグループや団体・個人の活動する場所や情報などを提供するなどの、市民活動支援もっており、現在4団体の登録があり、施設内外で様々な取り組みを行うなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。</p>
事業の今後について	<p>令和5年度から5年間、引き続き現在の指定管理者による当該施設での活動が行われることから、今後も、中心市街地をはじめとした本市の男女共同参画の拠点として、住環境向上に資する事業</p>

	を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。
--	------------------------------------

⑧. まちなみ景観整備促進事業(伊丹市)

事業実施期間	昭和 59 年度～【実施中】
事業概要	兵庫県の一般市で初めて景観条例を制定した本市では、景観条例に基づいた落ち着いたまちなみ景観を形成することで、交流人口の増加及び来街者の回遊性を向上させることにより、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 4 年度は、景観法並びに景観条例に基づき、中心市街地内に設定された特定のエリア（景観計画区域）における建築物の新築等に係る届出件数が 6 件あるなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	前計画期間中と同様に、年度によって当該助成・届出件数に差があるものの、引き続きまちなみ景観の形成を図るための、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑨. 安全・安心見守りカメラ整備事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	全国で発生した子どもが被害者となる事件や、平成 26 年に市内で発生した局地的豪雨被害等から、安全・安心見守りカメラを平成 27 年度より順次設置し、犯罪への抑止力や事件・事故の早期解決等多目的に利用してきた。中心市街地に 45 台設置されたカメラをはじめ、市内 1,200 台の更新等を行うことで、安全・安心なまちづくりを推進し、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。

	<p>令和4年度は、安全・安心見守りカメラの更新等費用の予算措置が行われ、これまで市民や関係機関から寄せられた意見等を勘案しながら、事業者との更新や再配置等について協議を進めるなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。</p>
事業の今後について	<p>今後も、安全・安心見守りカメラの更新等作業を継続して計画的に実施することで、これまでと同様に、犯罪の抑止、事件・事故の早期解決等を図るなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。</p>

⑩. まちなかミマモルメ整備事業(伊丹市)

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	<p>安全・安心見守りカメラとあわせ、ビーコン受信器を整備し、ビーコン発信器を持った子どもの登下校や認知症高齢者の徘徊等の位置情報を、家族や保護者のスマートフォン等に通知するサービスを行うことで、安全・安心なまちづくりを推進することで中心市街地の定住人口の増加に繋げる。</p>
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>目標値：149人増(R4～R8)※ 最新値：－</p> <p>※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。</p> <p>令和4年度は、中心市街地内の自動販売機に設置された5台のビーコン受信機をはじめ、市内に1,346台設置したビーコン受信機による位置情報通知サービスを行ってきた。</p> <p>また、さらなる利用促進のため、小学校1年生を対象に無料キャンペーンを実施し、さらには認知症高齢者、障がい者(児)についても要件を一定クリアすれば無料で利用できるなど、現在6,262人の人が利用している。</p> <p>特に、子どもや認知症高齢者等が行方不明になり捜索が必要な場合に、捜索に協力するボランティア市民2,566人により、行方不明者の捜査を行うなどの、地域ぐるみの見守り体制が構築されていることから、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与している。</p>
事業の今後について	<p>今後も、「まちなかミマモルメ」のさらなる普及のため、ビーコン受信機の設置・更新や利用者拡大を計画的に進めるなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和4年度は、主要事業は概ね順調に進捗しており、目標達成は可能だと思われる。

今後は、「市道中央天津線他電線共同溝整備事業」や「まちなみ景観整備促進事業」、「安全・安心見守りカメラ整備事業」、「まちなかミマモルメ整備事業」、「トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業)」などのハード整備を計画的に取り組むとともに、「シティプロモーション事業」では、特に市内外の子育て世代をターゲットに、本市、中心市街地の魅力を発信し続け、伊丹商エプラザの男女共同参画センター「ここいろ」や「いたみむっくむっくルーム」における様々な取り組みを通じて、居住環境の付加価値を高め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指したい。